

武田仰天子 （伏見宮） 小説家。嘉永七年閏七月、二十五年攝津國生れ、

大正十五年四月十四日歿（八毒一八九六）。本名頼。別號仰不愧天草堂

主人、如心庵、仰天。大阪で小學校教師、新聞記者を経て、明治二十

年東京勤王新聞社入社。その間の二十四年、浪華文學會の同志と雜誌

『なほはがた』を發行。

著書『二都の花』（仰天子名、明治二十四年十一月、二十四日金港堂書

籍株式會社）、『蝦夷錦』（同、明治二十六年六月十二日春陽堂）、

『二代忠孝』（同、明治二十七年四月十一日博文館『少年文學』）、

『細川櫻』（明治二十九年八月七日青木嵩山堂）、『源二位』（仰天

子名、明治二十年九月二十七日青木嵩山堂）、『お馬どうく』（同、

明治二十五年五月二十日金港堂書籍株式會社『金港堂お伽噺』）、『蝶

の御馳走』（同、明治二十五年六月一日金港堂書籍株式會社『金港堂

お伽噺』）、『小夜千鶴』（明治二十五年七月十一日青木嵩山堂）、

『梅若心中』（明治二十五年十一月四日青木嵩山堂）、『二月月形』

（明治二十六年二月十六日青木嵩山堂）、『おとらび』（明治二十六

年七月十五日青木嵩山堂）、『樂屋銀杏』（明治二十六年九月十七日

青木嵩山堂）、（山本）『おはな飾』（仰天子名、明治二十六年十月二十

日金港堂書籍株式會社）、『大陽糸』（明治二十七年二月二十日青木

嵩山堂）、『白露戦争寫真帖』（武田仰大名、合著、明治二十七年八月

十日金港堂書籍株式會社）、『丸腰銀次』（仰天子名、明治二十七年

年六月二十一日青木嵩山堂）、『白露戦争寫真帖・策貳集』（仰大名、

合著、明治二十七年十月十日金港堂書籍株式會社）、『教假作物語』

（本名、合著、文部省編、明治四十一年二月十六日、再刊、十一月一

十、二〇國定教科書共同販賣所、 『春女篇』 (明治四十二年十一月十一日)  
由田村宗武發行、東京教育書局發賣、 『女海鏡』 (明治四十四年五月)  
十八日大學館)等。